

---

# 明日の話

暁 優希

---

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

明日の話

### 【Nコード】

N2582M

### 【作者名】

暁 優希

### 【あらすじ】

わたしの愛する娘が死にました。

拝啓 天国のあなたへ

今日、わたしの大好きな娘が死にました。

あの子は生まれたときから病気持ちで、いつもわたし達は悲しんでいましたね。

「なぜあの子が……。何でわたし達の子が……。」

いつもいつもそう言っていてわたし達はあの子から逃げてばかりでした。

だけど、あの子は違った。

あなたが事故で死んでわたしが悲しんでいても、あの子は涙を見せませんでした。

そればかりか、あの子はわたしを慰めてくれました。

あの子は強い子だと、勝手に勘違いしていました。

違ったんです。

あの子は強くなってありませんでした。

あなたが亡くなった夜に病室に行くとあの子は泣いていました。

誰にも聞こえないほど小さな声で。

あの子は泣いていたんです。

そのときわたしは気付きました。

『あの子は強くなっていんだ。ただ、隠すのがうまいだけなんだ。』と。

わたし達はあの子に頼ってばかりだと気付いたんです。

わたしはなんてばかなんだろう。

あの子の気持ちなんて考えないで、ただあの子に『生きて欲しい』と勝手な気持ちを押し付けて……。

あの子がどれだけ自分を追い詰めていたなんて考えもしないで。

それでも、それでもあの子は笑っていた。  
わたしの悲しい顔を見たくないから。

あの子は優しすぎたから。

その日の朝から、あの子は「明日の話をして！」と言つようになりました。

明日のことなんてお母さん知らないわと言つて笑つと、あの子は「じゃあわたしが話してあげる！」と言つて笑いました。

「明日はね、起きたらまずお母さんに「おはよう」って言つて。そして、看護婦さんが朝食を持ってくるの！メニューはきつとお魚ね！」

そしたらねお魚がね動き出すんだ！  
皆のお魚が飛んで皆びっくりしちゃうんだ。」

あの子は笑つてそう話してくれました。  
いつもあの子はそうやって笑っていました。

なぜあの子が「明日の話をして！」なんて言つたのか分かつたのは  
あの子が死んでから。

あの子は誰よりも死の恐怖を知っていました。

だからこそあの子は明日を精いっぱい生きようと思つたのでしょう。  
本当のことは、わたしはあの子じゃないので分かりません。

でもそうだいいなと思つただけです。

そう思つてくれていればわたしがは救われるから。

やっぱり結局わたしは自分のことしか考えていません。

でもだからこそ、わたしは明日を頑張つて生きます。

あの子が生きれなかった明日、あなたが生きれなかった明日を。  
わたしは精いっぱい生きます。

わたしが今から生きる明日は、わたし一人分の明日ではなく、三人分の明日。

だからわたしは三人分の今を持って明日へ旅立ちます。

いってきます。

どうかお願い「いつてらっしゃい」を言って・・・。

えんど

（後書き）

どうでしたか？

まだまだ未熟ですがよりいいものが書けるように頑張ります。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2582m/>

---

明日の話

2010年10月15日22時55分発行